

Part 1

N：やあ、ミランダの明日の予定を知りたいんだ。

A：分かったわ。入って。

N：誰がコーディネートしたの？

A：これ？自分で適当に合わせただけよ。

N：来て。ん～、回って。素晴らしいね。本当に、

A：そう？

N：美しいよ。本当さ。私の役目は終わったな。

A：おお。

N：お祝いだ。シャンパンを持ってくるよ。

A：いいわ。何に乾杯するの？

N：夢のような仕事に乾杯するのさ。大勢の女性が就きたい仕事だ。

A：数ヵ月前に手に入れたものね。

N：君のことじゃないよ。

A：ん？

N：ジェームズ・ホルト。

A：ん？

N：マッシモ・コルテリオーニがジェームズの会社に投資して世界市場に進出するんだ。

A：うん。

N：バック、靴、香水。全てやっているんだ。そしてジェームズにはパートナーが必要だ。

そのパートナーは私になる。

A：ミランダは、

N：いやいや、ミランダは知ってるよ。彼女の推薦だからね。まさか。でないと、

A：でもでも、辞めてしまうのね。あなたのいない Runway なんて想像できないわ。

N：分かってる。でも、すごく興奮してるんだ。18年ぶりに自分の人生を変えられるんだ。

すごいよ。パリにまた来れるし、その時は本当にパリを満喫できる。

A：とにかく、おめでとう。ナイジェル、苦労が報われたわね。

N：その通りだよ。サイズ6。

A：サイズ4よ。

N：本当？

A：乾杯。

N：君に乾杯。

A：私たちに。

N：うん。

PART 2

A：はい、ミランダの行動には私が理解できないこともあるが、

C：あなたは彼女のことを憎んでいます。それを受け入れてください。

A：いいえ

C：彼女は有名なサディストです。

A：わかりました。彼女はタフです。しかもしもミランダが男性だったら、彼女がどれほど
すごい人かは誰も彼女についてなにも気づけないでしょうね。

C：ごめんなさい。それは不可能です。信じられません。あなたは彼女を守るの？

A：そうだよ

C：あなたは本当に目を丸くしながら新聞を配っていた女の子ですか？

あなたは闇へ渡ろうとしています。

A：わたしはそれに怒っています。

C：そうするべきではありません。魅力的ですね。

Part 3

A：どこに向かっているのかわかる？だって、、、

C：大丈夫だよ

A：私はわかんないよ

C：心配しないで、僕はこの街を自分の庭のようにしているんだ。

ここは世界で一番好きな場所なんだ

ガートルード・スラインはかつて「アメリカは私の国であり、パリは私の故郷である」と言っていたんだ。本当だよ

A：あなたの仕事って？そんなものを書き留め、ファイルにして、私たち女の子向けの記事にするの？

C：僕はクリスチャン・トンプソンだ、これが僕のやり方だ。

A：それがあなたのやり方なのね、なるほど

C：僕はフリーランスだから自由な時間がたくさんあるんだ。

A：なんでみんながパリに夢中なのか私には理解が出来なかつたけど、、、

素晴らしい街だ

ダメだ、ごめんなさい、ダメなの。ネイトと数日前別れたばかりだし、、、ああ、ワインを飲みすぎてよく聞こえないし、見えないし、頭もうまく働かないよ。

私はあなたのことほとんど知らないし、見ず知らずの街にいるのにもう言い訳は尽きたわ

C：良かった。

PART 4

M：もしもし？

A：よかった、ようやく繋がった！

M：なんですか？

A：今すぐジャックリースについて話すことがあります、彼女が、、、クリクリクリ、、、

R：はい？

A：ここにちは、ご迷惑をかけて申し訳ないのですが、もしかしたら、、、

M：ついに頭おかしくなったの？

A：ミランダお話をあります

M：二度と邪魔をしないで

A：でも、、、ちょっと、、、ミランダ！

A：ミランダ、待ってくださいミランダ

お話をあります、アーヴが *Runway* の編集長をジャックリースにしようとしています、

そして、クリスチャンがジャックリーの下で働くと言っています。

そして、アーヴは今日この事をあなたに伝えるつもりです。

ですがこのことを伝えれば、あなたはそれを解決できると思って

M：ねえ、フリージアの匂いがしない？

A：え？ 、、、使わないように業者には指示をしています

M：もし、フリージアを見つけたら、私はとってもがっかりするわ